


コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金実績報告（公開用）

令和3年2月28日

項目	内容
事業者名	会社名：株式会社大垣書店 代表者職名・氏名：代表取締役大垣守弘
補助事業テーマ	ウィズコロナ社会における ICT 等を活用した新たなビジネスモデルの調査検討
事業実施期間	令和2年10月12日 ～ 令和3年2月25日
事業の目的	<ol style="list-style-type: none"> ① コロナ禍における堀川アート&クラフトセンター事業全体の調査研究 ② VR 環境の整備とオペレーション構築 ③ 店頭での実地調査
事業の実績(成果)	<p>① コロナ禍における新規店舗オープンに向け、ICTツールの活用によりVR空間によるオンライン販売を実験的に実装するとともに、早期の段階から PR を行うことになりました。それに伴い、そのコンセプト・事業フロー等を再整理し、ウェブサイトや印刷物等を構築しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ティザーサイト https://horikawa-shinbunkabldg.jp/ ・BtoB 資料/ロゴデザイン  <p>② ICT を活用した事業を展開するにあたり、「店舗で環境を構築し、日々運用できるのか」について実証実験として VR 環境の整備を行いました。様々取り組んだところ、大型商品については対応可能だが、書籍のように小さい商品には現時点で不向きであることが判明しました。</p> <p>③ 店頭に VR ゴーグルを設置し、その操作感を体験してもらうとともにアンケートを実施し、次のような点が判明しました。</p> <p>アンケート結果：VR 空間では、文字が読みづらく「ビジュアル」で商品を選別している現実がある/画質の改善に対する意見が多く、商品をつぶさに見るといふ行為に障害がある</p>
今後の展望	<p>ICT ツールの導入においては、現時点でデバイスが発展途上であるものの、その方法によっては使用に耐えうるものであり、VR ギャラリーも現実味のある取り組みであると判明した。新事業においては、京都における先駆けとしてアーティストや伝統工芸、文化イベントなどと組み合わせ、市場の開拓を行っていけるものと考えている。</p>